

乳幼児期から小学生までの育ちを見通す地域人材育成のための 遠隔授業を支えるテレビ会議システムと LMS の活用

An Application of Video Conferencing Systems and Learning Management Systems in Preschool and Elementary Teacher Preparation Programs

谷塚 光典^{*1}, 高柳 充利^{*1}, 山口 美和^{*2}, 橋本 一雄^{*2}
Mitsunori YATSUKA^{*1}, Mitsutoshi TAKAYANAGI^{*1}, Miwa YAMAGUCHI^{*2}, Kazuo HASHIMOTO^{*2}

^{*1} 信州大学教育学部

^{*1} Faculty of Education, Shinshu University

^{*2} 上田女子短期大学

^{*2} Ueda Women's Junior College

Email: yatsuka@shinshu-u.ac.jp

あらまし：上田女子短期大学幼児教育学科と信州大学教育学部では、文部科学省戦略 GP の支援を受けて、「乳幼児期から小学校までの育ちを見通す地域人材の育成システム『信州モデル』の実現」プロジェクトに取り組んできた。その一環として、テレビ会議システム及び LMS を活用しながら遠隔授業（単位互換授業及び相互乗入授業）を実施している。テレビ会議システムを活用することにより、遠隔地にいる学生間で意見交換を行い、幼稚園と小学校の違いと連続性の重要性について学生の認識を深めることができた。
キーワード：テレビ会議システム、遠隔講義、単位互換、大学間連携、戦略 GP

1. はじめに

上田女子短期大学幼児教育学科と信州大学教育学部では、文部科学省「大学教育充実のための戦略的
大学連携支援プログラムにおける大学間連携戦略」（戦略 GP）の支援を受けて、「乳幼児期から小学校までの育ちを見通す地域人材の育成システム『信州モデル』の実現」プロジェクトに取り組んできた。プロジェクトの概要は図 1 のとおりであるが、3 つの柱の 1 つとして、「乳幼児期から小学校段階までの育ちを見通した教育プログラムの構築」を設定した。ハイビジョン対応のテレビ会議システムを新規導入したり既存設備を利用したりして、両大学において開講されている授業の相互受講・単位互換、附属幼稚園における保育実習の相互参観・遠隔授業研究、学生フォーラムや FD・SD 学習会の遠隔参加等、遠隔地を結びながら行われる事業への幅広い活用を試みた¹⁾²⁾。

そこで、本発表では、テレビ会議システム及び LMS を活用した遠隔授業による大学間連携の効果を検証し今後の課題を検討する。

2. 遠隔授業システム導入のための環境整備

平成 21 年度は、ハードウェア面の整備・拡充として、遠隔授業システムの選定作業、設置・導入及び試行的使用を行った。さらに、授業・会議・学習会等企画の遠隔開催に向けて、遠隔授業システムに接続して使用する周辺機器の整備を行った。

運用面では、教材・カリキュラム開発部会が中心となり、授業期間中複数回にわたって遠隔授業システムを活用した授業の相互乗入の試行を実施した。

これらの一連の授業・企画・会議等における試験的な遠隔授業システムの使用により、不具合や問題

点がないかを精査することができ、両大学間の授業聴講が可能になる環境へむけての改善がなされた。特に、信州大学では、学内での遠隔講義に加えて、高等教育コンソーシアム信州における遠隔講義の実績があったが³⁾、上田女子短期大学では、LAN 配線工事だけではなく、遠隔授業用の専用回線を契約・敷設する等ネットワーク環境整備がなされた。

このような継続的な改善により、一大学では提供できない多様な教育メニュー学生への提供を可能とするカリキュラムの充実へ向けての進展がなされた。さらに両大学は単位互換の協定を結び、平成 23 年度からの本格運用が可能になった。

3. 単位互換授業・相互乗入授業の実施

3.1 実施のねらい

単位互換授業・相互乗入授業を実施するねらいは、学生に、自大学で開講されている授業以外の他大学の授業を受講する機会を提供することであった。単位互換制度によって、自大学にない授業を選択でき、学生の興味や知識の幅を広げることが可能になる。また、両大学で開講されている 2 つの授業を遠隔授業システムで結ぶ相互乗入授業の実施により、両大学でそれぞれ開講されている科目の特性を知り、保育者養成及び小学校以上の教員養成の特色を理解するとともに、両大学の学生同士が直接意見交換できる場を提供した。両大学の学生が異なる視点を提供し合うことで、授業に対しての意欲を高め、より深い学習の成果を獲得することが可能になる。

3.2 単位互換授業の実施

平成 22 年度より単位互換協定の締結の準備を進め、平成 23 年度前期より次の 2 科目で単位互換を実

施した。

- ・上田女子短期大学「保育内容総論」(科目担当者：山口美和) 前期開講
- ・信州大学教育学部「発達と教育」(科目担当者：高柳充利) 後期開講

「保育内容総論」は、信州大学教育学部から7名の受講があり、授業終了後の学生評価の結果も高かった。「発達と教育」は、受講希望者がいなかった。

3.3 相互乗入授業の実施

相互乗入授業は、平成22年度後期より次の2科目間で試行的に実施を行い、平成23年度も継続した。

- ・上田女子短期大学「保育教材と指導計画の研究」(科目担当者：山口美和) 後期開講
- ・信州大学教育学部「臨床教育学概論」(科目担当者：山口恒夫(平成22年度)／高柳充利(平成23年度)) 後期開講

さらに、平成23年度から新たに次の2科目間で実施した。

- ・上田女子短期大学「障害児教育I」(科目担当者：長檜涼子) 1年生・後期開講
- ・信州大学教育学部「教育内容・方法論C」(科目担当者：安達仁美) 2年生・後期開講

これらの授業では、幼稚園と小学校における実際の事例をもとに、問題を発見し解決の方策について考えるケースメソッド、幼稚園卒園時にどんな子どもに育ってほしいのかを考えるKJ法、幼稚園年長児向けの指導計画を実践する模擬保育等を実施した。

そして、平成24年度からは、ビデオシラバスの提示、配付資料、学生間の意見交換のために、信州大学で導入しているMoodleベースのLMS「eALPS」を活用することを計画している。

4. おわりに

単位互換授業及び相互乗入授業の実施の成果として、実際的な問題について両大学の学生が意見交換を行える相互乗入授業は、学生の満足度も高かった。

そして、テレビ越しに学生間の意見交換を行い、幼稚園と小学校の違いと連続性の重要性について、学生の認識を深めることができた。

今後の課題としては、単位互換の受講生確保が課題である。より魅力的な授業を提供するとともに、事前に内容を周知するためにビデオシラバス⁴⁾を活用するなど、シラバスの示し方も工夫が必要である。

5. 付記

本研究は、文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」の支援を受けている。また、その成果は、中間報告書及び最終報告書にまとめられている⁵⁾。

参考文献

- (1) 谷塚光典, 中山裕一郎, 山口恒夫, 高柳充利, 山口美和, 小川史, 笹井弘, 橋本一雄 “乳幼児期から小学生までの育ちを見通す地域人材を育成するためのテレビ会議システム活用の試み”, 教育システム情報学会第35回全国大会講演論文集, pp.349-350 (2010)
- (2) 谷塚光典, 中山裕一郎, 山口恒夫, 高柳充利, 山口美和, 小川史, 笹井弘, 橋本一雄 “乳幼児期から小学生までの育ちを見通す地域人材を育成するための大学間連携FDの試み”, 日本教育工学会研究報告集, JSET10-5, pp.7-12 (2010)
- (3) 森下孟, 新村正明, 茅野基 “高等教育コンソーシアム信州における遠隔講義支援システムの運用”, 教育システム情報学会研究報告, Vol.25, No.3, pp.35-38 (2010)
- (4) 森下孟, 新村正明 “履修科目選択時におけるビデオシラバスの効果と活用提案”, メディア教育研究, Vol.7, No.1, pp.D1-D10 (2010)
- (5) 上田女子短期大学, 信州大学 平成21年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム選定事業「乳幼児期から小学校までの育ちを見通す地域人材の育成システム『信州モデル』の実現」・中間報告書(2011), 同・最終報告書(2012)

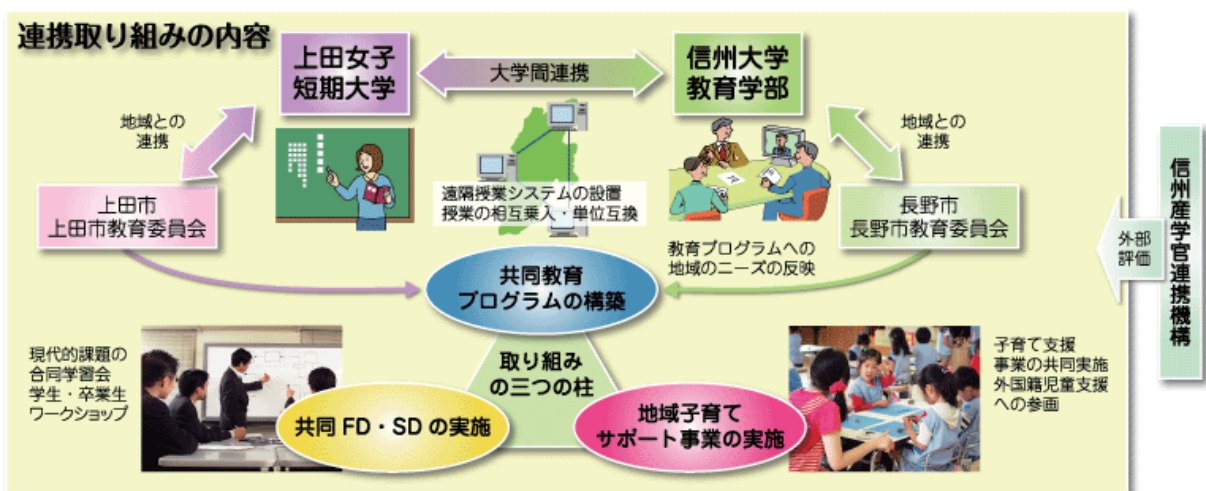


図1 「乳幼児期から小学校までの育ちを見通す地域人材の育成システム『信州モデル』の実現」プロジェクトの内容